

私とキャンプ

堀口 廣司

Horiguchi Kenji

社会福祉法人雲柱社
さくら橋コミュニティセンター館長
ぐんまYMCA 元総主事
東京YMCA 元副総主事
YMCA東山荘 元所長



▼キャンプとの出会い

中学2年の時にボーイスカウトが田舎にでき入団した時から始まります。

群馬県連盟富岡第一団で甘楽教会に拠点がありました。キャンプとの出会いはキリスト教との出会いでもあり牧師の息子との付き合いで英会話教室やイースター、クリスマスの礼拝に出ることもありました。ボーイでの忘れられない体験は朝霧高原での世界ジャンボリーに参加した時の台風の夜の事です。一晩中テントの支柱を持ってテントを守り、覚えてたのキャンプソングを交互に歌って耐えていましたが、その持った所から2本の支柱が折れてしまい涙を流しながら撤収したびしょびしょの思春の1ページです。

榛名湖や利根川上流の自然の中にテントを担いで飯盒を下げて分け入った思い出でした。

▼神様、カミさんとの出会い

学生時代に顔を出していた教会の九十九里浜のキャンプ場でファイヤーの火を囲み牧師さんから「イエス・キリストを信じ新しい生き方を選びとりませんか。」「あなたの若き魂と身体を愛の実現のために捧げませんか。」との呼びかけにいつの間にか前に進み出ていた純心な聖なる場がファイヤーでした。

YMCAに入職した初めてのキャンプは綺麗な尾瀬の川で、一日川遊びでした。蔵王の中高生スキーキャンプでは、キャンパーから様々な準備と当日進行もしてみたいとの要望を受け説明会から中高生が参画し思い出会も3回位行い、結局は中高校生グループができYMCAのキャンプ場のはしごをするような自由な活動をさせてもらいました。

グループダイナミックスの面白さと自己実現を遂げるために思春期の人格形成にかかわることの深さと楽しさ知ること生きがいを感じる毎日でした。その時の食事担当リーダーが今の家内でいまだに全てお世話になっています。



▼組織キャンプの中で

赤城キャンプ場スタッフの時は家族で山に登り父親は管理ディレクター、母親はキッチンボランティア、子どもたちはキャンプ場のリーダーやキッチンスタッフ、近隣の皆さんにまで育てていただき我が家の原点は赤城にあるといっても過言ではありません。自閉的傾向の子どもをもつ保護者の要請に応えリーダーとして医師や専門家が集まりキャンプを実施することができました。「みなのが1つとなる。」運動体験が発達障がい児支援キャンプ、プログラムを東京で始める時の大きな力となりました。この時もLD学会の会長さんがスキーのインストラクターを引き受けてくださり、キャンプを支えるチーム力（組織キャンプ）が必要なことを学びました。キャンパーに非日常としてのキャンプの体験を獲得してもらいキャンプ後の日常をさらに充実してもらうためにはキャンプ場としては日常のキャンプ環境を万全にすることを現地の管理人の皆さんから学びました。

▼神の国運動としてのキャンプ

心から笑い、楽しいーという体験。感激、感動のキャンプ生活の中から自己充足感（ここが自分の居場所だー）が自己を実現する生きる力になることだとコミュニケーション障がいを持ったキャンパーが教えてくれました。キャンプ最後の夜、「親友が出来た。」と二人で跳びあがってファイヤーダンスを踊っている光景は忘れられません。心地良い愉快的居場所がキャンプにあり、切磋琢磨し合う仲間と人格を高め信じあえる付き合いを深めていくと人はさらに素敵な自分になれることをキャンプが証明してくれました。家族でリーダー仲間と支え助け合う場、人生の筋目のキラキラ輝く場がキャンプでした。

「み心の天になるごとく地にもなさせたまえ」と主の祈りを唱えますがキャンプというコミュニティを作り上げることが神の園であり、人生の中での多くの神の園を積み上げたところに神の国があると子どもたちから教えられたことが私の宝物となっています。

Profile



1954年 群馬生まれ。

中学生の時に教会でのボーイスカウトに入団。東京YMCAに入職し山中湖、野尻湖のキャンプ場、妙高高原ロッジを担当。出向時は赤城キャンプ場の担当者となる。

ぐんまYMCAでは自閉的傾向児のキャンプ、東京YMCAでは発達障がい児のキャンプの立ち上げに参加。YMCA東山荘の100周年記念事業時の所長を担当する。

現在、社会福祉法人雲柱社さくら橋コミュニティセンター館長。

【取材：日本YMCA同盟 沼田光隆】